日本大学薬学部校友会

桜薬会会報

44

日本大学・薬学部における6年制・薬学教育

薬学部長　安　西　偕二郎

1　はじめに

日本大学・薬学部は創設以来、半世紀に亘り「人類の保健、医療、福祉に貢献する新しい薬学の創造」を理念として、薬学教育・研究を実施して来た。近年、薬剤師の医療における役割が見直される中で、薬学教育も従来の創薬科学教育から医療薬学教育へ軸足を移す事が求められ、平成18年度から６年制教育に移行することが決定された。本薬学部では、６年一貫教育制度を採用し、所謂、移行措置としての４年制学部は設置せず薬剤師教育を行う事を平成16年９月に教授会決定していたが、平成17年９月には６年制薬学部の設置に必要な文部科学省との手続きが完了し、本学部における６年制・薬学部への移行が最終的に確定した。本薬学部では、これまでの教学制度・組織を整備し新教育制度にそなえるため、平成15年度から見直しに着手した。６年制教育の開始にあたり、現況のまとめを校友諸氏にご報告申し上げたい。

2　６年制学部・学科の名称と定員

６年制学部の名称としては「薬学部」を採用し、「薬学科」１学科から構成される。収容定員は１学年240名（６学年で総収容定員1440名）。薬学部創設時の定員は１学年180名であったが、財政基盤の確立などの観点から平成16年度より240名に増員した。大学院は、将来的には４年制の博士課程のみとなるが、設置申請は学部の完成に合せて実施する予定である。

3　２号館と８号館の建設

２号館（旧食堂棟）を解体し、本年４月竣工予定で、およそ２倍の規模の建物を新築中である。食堂のみならず学生ホールとしての快適な空間を提供する。特に、６年制では収容定員が50％増えるのみならず、５、６年次の就学状況は現・修士課程と似通ったものとなるため、自学・自習に利用する空間が必要となる。２号館の内部仕様はそのような意図をも反映している。８号館は、来年２月竣工予定で昨年末に着工した。２分割も可能な大講義室、薬剤系基礎実習室、模擬薬局などを備え、６年制教育の中核を担う講義・実習棟である。A・Bクラス合同授業、IT利用などの講義法の見直し・改善、キャンパスのIT環境の充実など、学部の短・中期計画に沿って計画された。

4　学科・研究室体制から学系・教育研究部門・研究ユニット体制へ

新教育制度では、「臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とする」という教育理念の下に、「薬剤師としての知識・技能」に加え「医療人としての心」の涵養が目指されている。具体的には、モデル・コアカリキュラムに基づく標準化及び実務実習の長期・必修化を核に教育内容が、より実践的なものに変更され、また、教育能力を向上させるため教員を対象にFD活動（Faculty Development）が展開されている。更には、第三者による薬学独自の評価システムも予定され、年限延長に関する説明責任の履行が強く意識されている。

このような社会的な背景の下、本学部の理念に基づいて教育を展開するため、これまでの制度・組織を変更し、平

目　次

日本大学・薬学部における６年制・薬学教育
薬学部長　安西偕二郎…2
特集「サプリメント（薬用植物）の現状と将来
－食薬区分の狭間で－」　日本大学薬学部
セルフメディケーション学ユニット教授　安川　憲…4
日本大学薬学卒後教育100回記念講演会を終えて
日本大学薬学卒後教育17年度委員長 教授 伴野和夫…7
卒後教育講座のご案内
平成17年度卒後教育委員長　教授　伴野和夫…8
第４回日本大学医療系同窓・校友学術講演会
日本大学医療系同窓・校友連絡会前幹事　鈴木　孝…8
平成19年度薬学部入学試験期日及び科目等……9
研究室だより……10
研究室同窓会……14
桜の木の下で……15
日本大学・日本大学校友会ニュース……18
会務報告……19
会合予告……21
会費納入報告……22
◆表紙・写真
平成17年度学位記伝達式（51期）
櫻薬会賞受領者：羽賀健悟

成18年度から学系・教育研究部門・研究ユニット体制に移行することとした。この制度では、薬学科は基礎薬学系、医療薬学系、教養教育系の３学系に分割され、それぞれの学系には関連性の高い教育分野を束ねた計７つの教育・研究部門が配置される。従来の研究室は、組織上の構成単位としての色彩が強かったが、６年制では教育・研究を実行する機能単位としての役割を強調できるよう、名称を研究ユニットに変更し各教育・研究部門に配置する。各教員はこれらのユニットに所属することとなる。紙面の都合で運用など詳細は割愛するが、この制度・組織の目的は６年制薬学部における、講義・実習カリキュラムの立案・実施・見直しなど、学部教育における協力体制の円滑な推進を第一としている（concept：教育の連携）。また、専門分野を異にした研究ユニットが連携することによって、研究の効率的推進や６年制教育に必要な新しい教育・研究分野の創出を容易にすることを企図している（concept：研究の独立と連携）。

5　医学部附属病院における実務実習の実施

６年制薬学教育では、病院の薬剤部やベッドサイドでの実習が大変に重要視されている。その結果、病院・薬局の確保が急がれたため、薬剤師数、教育に用いるスペースの準備、費用などが大問題となっているが、本薬学部では、定員240名の約半分を医学部附属病院でお世話頂くことになった。この体制は、安定した教育を在学生に提供できることを意味するが、同時に受験生やその保護者に向けた総合大学としてのセールス・ポイントにもなる。今次の教育制度改革を契機として、平成16年度に掲げた「総合大学・日本大学における教学活動との有機的な融合の中で、薬学教育・研究を実践し、医療に貢献できる薬学人を輩出する」という方針が一部実現されようとしているが、学部間リンケージを重視する日本大学の現況の中で、それが教育面での新たな連携体制に発展して行くよう期待し、また努力もしたい。既に、多くの校友の方々に学部教育の中でご支援を頂いていることから、それらが個人的な協力に矮小化されてしまうことなく「校友との絆」として在学生にも明確に伝えられるよう、また、校友のご協力を頂くうえで必要と思われる制度・組織（例えば、薬学部・「臨床教授」の称号の準備など）も整備する。

6　薬剤師会との連携

学部教育には薬剤師業務に長けた実務家教員が必要である。そのため、学部における事前教育や病院・薬局の指導にあたる指導者を養成することが急がれている。実務面での弱点はあるが、薬学部には教育のノウハウの蓄積や、社会人大学院、卒后教育などの運営実績がある。近時における薬剤師を対象としたFD活動の病院薬剤師会・薬剤師会との共催もある。これらをもとに、薬剤師生涯教育や各種の研修において本薬学部の貢献度をいっそう高めるため、組織的な交流に発展させる計画を立てている。

7　国家試験対策とリメディアル教育の専従

最近の薬科大学の乱立の中で、国家試験合格率などによる私立大学のランク付けがますます厳しくなると予想される。国家試験対策を合理化し更に強化するため、平成16年度に対策に専従する薬学教育・研究ユニットを設けた。また、国家試験合格率は受験生の偏差値と強い相関性があることも分った。そこで、同薬学教育研究ユニットでは新入生の学力問題にも対応するため、入学直後における高等学校科目の補習授業も担当している。ニワトリか卵かという議論の前に、学生が魅力を感じることができるよう、様々な整備の一環として位置付けたい。

8　特徴ある薬学研究の推進

薬学研究所で行なわれている文部科学省の学術フロンティア推進事業は平成18年度で終了する。この事業の５年間の成果を踏まえ、平成19年度以降、継続あるいは新規事業の立ち上げを計画している。また、それらとは別のプランとして、薬学研究所にはプロジェクト研究の実施母体としてゲノム機能解析センターを開設する。第一回プロジェクトとして「昆虫共生菌ゲノム・プロジェクト」を平成18年度より開始して、他学部や学外の研究機関との共同研究により創薬資源を探索し医療への応用を模索する。

9　おわりに

平成15年度からの準備の中で、「見直しを必要とする事柄が極めて多岐にわたり、一つひとつのピースが複雑にねじれ絡み合っている。解きほぐし全体の中での関連付けを行う必要がある」ことを強く意識し、そのような方向性で対応したように思う。しかし、制度・組織をいくら整備したところで、教育・研究目標の達成には、言うまでもなく教員・学生・職員の主体的な参加が不可欠である。また、教育の両輪にも例えられる校友諸兄・姉からの忌憚のないご意見によって、制度・組織は更に成熟したものとなるに違いない。「良い教育と研究を展開する。この学園に活力を与える。学生が誇りを持って学び、巣立って行く」。このような単純・明快な目標に向け一つになることは、それ程難しくはないのじゃなかろうか、という希望も持っている。昨年12月に、平成18年度から始まる２期目のご支援を頂いたが、その希望を現実のものとすることもまた、次の３年間の大切なテーマの一つではないかと思う。

平成18年度入試の応募者は、前年に比べ40％減少した。新しい教育システムが学生の教育において適切に機能しているのか、学力や理解度をきちんと把握することが、これまでにも増して重要な意味を持つ、不透明で難しい時代が到来しているように思う。稿を終えるにあたり、校友諸氏のますますの発展を祈念し報告とさせて頂きたい。

サプリメント（薬用植物）の現状と将来
―食薬区分の狭間で―

日本大学薬学部　セルフメディケーション学ユニット教授　安　川　　憲

1．はじめに

人生80年といわれる高齢社会を迎え、人々の関心は単に長寿を願うことから、いかに生き甲斐を持って健康で充実した生活を送るかというQuality of Life（QOL；生活の質）の向上に移りつつある。中でも、健康であることは、そのような生活の実現のために欠くことの出来ない前提といえる。しかしながら、食生活の変化は、生活習慣病患者とその予備軍を増加させ続けている。一方、健康を維持するには、食事、運動、そして休養が大切と言われているが、忙しく働きまわる日々の生活では、限られたことしか出来ないのが現状である。そこで人々は、主食や主菜・副菜の他に、健康によいといわれるものや付加価値があるものを求めるようになった。

このような状況の中、国民のニーズを捉えたサプリメント（健康食品）は着実に人々の生活に浸透し、消費不況の波を受けることなくその市場規模は、今や１兆円を超えるまでに成長した。特に、保健機能食品制度の創設を機に新製品の投入が活発化した特定保健用食品の伸張が著しい。

しかし、一方でサプリメントは、医薬品にしか使うことの出来ない成分が入ったものが流通したり、同じ成分が医薬品として扱われているものもあり、不適正な販売方法を巡るトラブルが問題点となっている。

2．サプリメントに関係する法律

いわゆるサプリメントとは普通の食品よりも健康によいと称して売られている食品を指しているが、サプリメントそのものを規定する単独の法律はなく、法令上、サプリメントについての明確な定義はない。よって、通常の食品と同様の関係法令によって規制されている。

2－1．食品衛生法

食品衛生法でいう食品とは、薬事法で規定されている医薬品及び医薬部外品以外のすべての飲食物を指している。平成13年４月に、消費者が適切にサプリメント等を選択できるよう保健機能食品制度が創設され、厚生労働省が定めた基準等を満たしたものは、保健機能食品として販売できることになった。保健機能食品とは、いわゆるサプリメントのうち、定められた表示基準や規格基準等、一定の要件を満たすものとされており、特定保健用食品と栄養機能食品の２つがある。

特定保健用食品については、既に平成３年９月から栄養改善法に基づく制度として創設されていたが、錠剤型、カプセル剤型等をしていない通常の形態をした食品とされていた。現在の保健機能食品制度では、形状を問わず全ての食品が対象となっている。

特定保健用食品は個別許可型で、承認された食品には特定保健用食品のマークが表示される。これに対し、栄養機能食品は、規格基準型で、当該栄養成分が規格基準に合致していれば、自由に製造し販売できる。これは、身体の健全な成長、発達、健康の維持に必要な栄養成分の補給・補完を目的とするものである。

2－2．JAS法

一般消費者の商品選択に役立てるため、酒類並びに医薬品、医薬部外品及び化粧品を除くすべての飲食料品を対象に、品質に関する表示について、製造業者又は販売業者（輸入者）が守るべき基準を定めている。

品質表示基準では、名称、原材料等の横断的な表示の基準を定めている。また、品目の特性により横断的な品質表示基準での対応では不十分な表示事項、内容、方法については、別途個別品目ごとに品質表示基準を定めている。

2－3．健康増進法

サプリメントとして、カルシウムやビタミン等の健康によいとされているものを添加したり、高たんぱく質、低カロリー、糖分控えめ等の栄養成分等に関する表示がされている食品について、栄養成分等の名称、含有量等を消費者にわかりやすく、適正に表示するため、平成８年５月から栄養に関する表示制度が制定された。この制度は、栄養成分又は熱量に関する表示をしようとする場合に、主要栄養成分及び表示している栄養成分の含有量の表示を義務付け、併せて、強調表示を行う場合には、その食品が満たすべき栄養成分の含有量の基準を定めたものである。サプリメントにおいても、何らかの栄養成分等に関する表示をする場合には、この栄養表示基準に従った表示が義務付けられる。

また、食品に乳児用、幼児用、妊産婦用、病者用（糖尿病用、腎臓病用、高血圧用等）等の特

表１．医薬品・食品の分類

医薬品	新指定医薬部外品	食　品		
医療用医薬品 漢方・生薬製剤 一般用医薬品 ●精神神経用薬 ●胃腸薬 ●滋養強壮剤 ●その他	生薬配合製剤 ●ビタミン含有保健剤 ●健胃清涼剤 ●のど清涼剤	特定保健用食品 個別審査型 （ハーブ・天然物他）	栄養機能食品 規格基準型 （ビタミン12種、ミネラル２種のみ） 生薬・ハーブは基準未設定	一般食品 （含むサプリメント） 効能表示不可 （ハーブ他）

別な用途に適する旨や特定の保健の目的が期待できる旨の表示をしようとする場合には、「特別用途食品」（「特定保健用食品」を含む）として厚生労働大臣の許可が必要である。この特別用途食品のうち「特定保健用食品」については、「栄養機能食品」と併せて「保健機能食品」としても規定されており、「おなかの調子を整える」、「血圧が高めの方に適する」、「ミネラルの吸収を助ける」等の特定の保健の目的が期待できる旨の表示ができる。

２－４．薬事法

サプリメントは医薬品的効能効果を標ぼうする等、医薬品の目的性を持たせれば医薬品に該当するが、承認・許可を受けていないため、無承認無許可医薬品となり薬事法に違反することになる。サプリメントは健康に関連づけることでその商品価値を生み出しており、ともすると医薬品的な効能・効果を標ぼうしたり、医薬品成分を添加する等、無承認無許可医薬品に該当するケースが多く見られる。

医薬品と食品との区別については、昭和46年６月に厚生省薬務局長通知「無承認無許可医薬品の指導取締りについて」（以下、食薬区分）で示されている。

この中で、人が経口的に服用する物について「医薬品の範囲に関する基準」を定めており、製品が医薬品に該当するかどうかの判断はこの基準による。医薬品と判定するための要素は、成分本質（原材料）、効能効果、形状、用法用量の4つである。医薬品とみなされる範囲は、効能効果、形状及び用法用量の如何にかかわらず、医薬品とされる成分本質が配合または含有されている場合は原則として医薬品とされる。しかし、医薬品とされる成分本質が配合または含有されていない場合であっても、効能効果、形状、用法用量が医薬品的である場合は原則として医薬品とみなされる。

野菜、果物、菓子、調理品等その外観、形状等から明きらかに食品と認識される物は、医薬品に該当しない。但し、一見すると食品と認識される物であっても、その中に配合されている成分によっては「明らかに食品」とならない場含がある。

医薬品の範囲に関する基準では、様々な成分についてその成分の作用等を考慮し、「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）」と「効能効果を標ぼうしない限り食品と認められる（医薬品と判断しない）成分本質（原材料）」に分類し、現在までに判断された成分本質（原材料）については、リストとして例示されている。医薬品的効能効果を標ぼうしない限り食品とする成分本質（原材料）リストには、植物由来物等として767種がある。しかし、この中には基原植物が不明なものが意外と多いのに驚かされる。例を挙げると、コナスビ、果実（薬用部位）とあるが、茄子の品種かサクラソウ科のコナスビか不明である。コナスビの果実は、食用にされた記録が無い。キンセンソウ、全草（薬用部位）とあるが、この様な和名の植物は存在しない。中国には、金銭草と名の付く生薬が10数種類あり、また、金銭草という名の植物もある。その金銭草は、葉茎を医薬品としている。その他に、検索不能なものに、アラガオ、インペティギノサ、エンシショウ、オトメアゼア、カシュトウ、カリウスフォレスコリー、クジチョウ、ケイコツソウ、ケン、コウカガショウ、コジン、コリビ、サキョウ、サンカクトウ、シケイジョテイ、ジジン、シセンサンショウ、シャウペデコウロ、シャエンシ、ジャビャクシ、ズイカク、セキコウジュ、ダイケットウ、タイワンスク、タンティヒボウ、チア、ハクショウ、ヒマラヤニンジン、フタバムグサ、ブッシュティー、ブラックルート、ヘルニアリアソウ、ラスグラブラ等がある。この様にリストには、基原が不明の物の外に、有毒なものまでが載っている。例えば、サイシン（ウスバサイシン、ケイリンサイシン）、葉・茎（薬用部位）があるが、このサイシンはウマノスズクサ科に属し、葉・茎には腎毒性を有するアリストロキア酸を含有しているので極めて危険である。徐々にリストには、学名等追加され整備されつつあるが、基原を確定させるために全ての名称について、学名の記載が急務である。

食品に効能効果を表示説明されている場合は、医薬品的な効能効果を標ぼうしているものとみなされる。これは、そのものの容器、包装、添付文書及びチラシ、パンフレット、刊行物等の広告宣伝物あるいは演述等、およそ販売に関連するすべての手段による表示説明によるものも含まれ、インターネット広告も例外ではない。ただし、厚生労働大臣が定める基準に従って表示をしている栄養機能食品については、その栄養成分の機能表示等を医薬品的効能効果とは判断されない。

医薬品ユビデカレノンの一日量は30 mgであるが、同じ成分であるサプリメント、コーエンザイムQ10の一日量は、医薬品の数倍という可笑しな状態となっている。このような例は、カフェイン等にも見られる。

医薬品的とみなす効能効果とは、疾病の治療又は予防を目的とする効能効果、身体の組織機能の一般的な増強、増進を主たる目的とする効能効果、医薬品的な効能効果の暗示を指している。この暗示するものには、各称又はキャッチフレーズ、含有成分の表示及び説明、起源、由来等の説明、新聞、雑誌等の記事、医師、学者等の談話、学説、経験談等を引用又は掲載すること等がある。

最近、アガリクス商品の広告をめぐる健康食品会社と出版社による薬事法違反事件では、事件の対象となった２冊に書かれた体験談はすべて１人のフリーライターによる創作であった。健康食品会社は出版社とタイアップし、アガリクスの加工食品を３年余で約20億円売上たといわれている。

３．有害成分と医薬品との相互作用

3-1．有害成分

植物性医薬品（生薬）は、有効成分の定量試験、純度試験、力価試験、残留農薬試験等様々な試験に適合する必要がある。しかし、サプリメントは、食品であることからこの様な試験は規定されていない。例えば、アルツハイマー病に使用されているイチョウ葉エキスは、ドイツ、フランス、韓国では医薬品であるため厳しい規格に適合しなくてはいけないが、我国では食品であるためこの様な厳しい試験を受けていないものが販売されている。イチョウ葉エキスの有効成分（図１）は、それぞれ数種のフラボノイド配糖体とテルペノイド誘導体とされており、医薬品では含有量が規定されているが、食品では何の規制も無い。また、有害成分であるギンコール酸（図１）は、医薬品で５ ppm

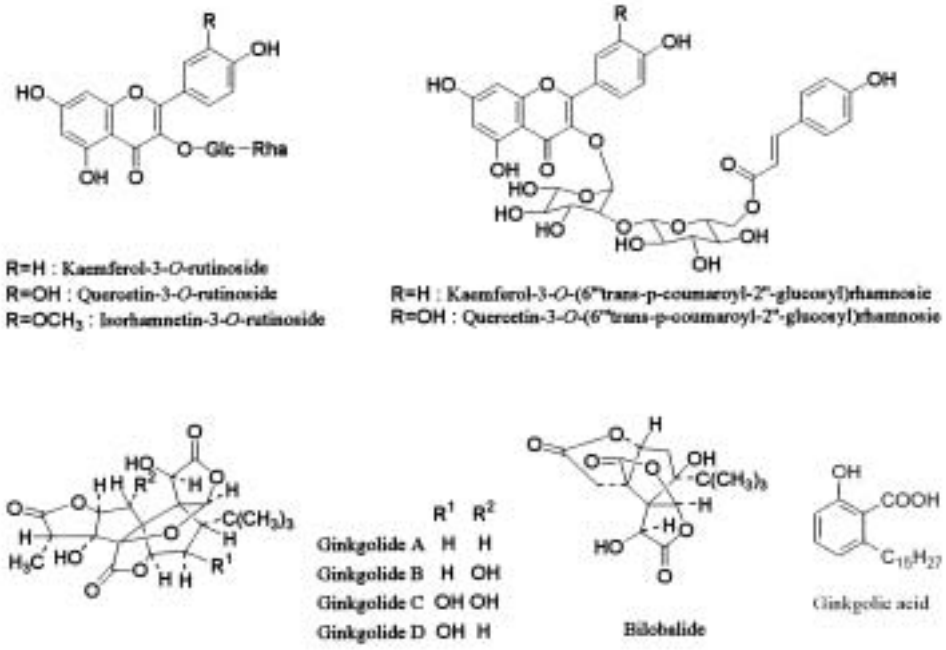


図１．　イチョウ葉の有効成分と有害成分

以下と規定されているが、食品では何の規制も無い。この様に我国のイチョウ葉エキス製品は、食品であるために有効成分の含量が不明なものや高濃度の有害成分を含有するものが存在し国民を危険に曝している。食品については、有効成分や有害成分の含量、残留農薬の定量値等の規格が無く有効性の無いものや有害成分を含むもの等野放しの状態である。

最近、先に挙げたアガリスクの一部の製品は、動物実験で発癌促進作用が確認され、製品回収が行われている。その他の製品の研究結果如何では、拡大の恐れもある。その他にも、食薬区分に収載されている物の中に、先に挙げたサイシンの地上部、コンフリー、西洋茜等有毒成分を含有しているものは、早急に削除すべきである。

３－２．医薬品との相互作用

科学の進歩と共に、食品中の成分が薬物代謝酵素に影響を及ぼし、医薬品を体内から異常に早く排出したり、体内に長く留まらせたりすることが明らかとなってきた。例えば、ドイツ、韓国で医薬品であるセント・ジョーンズ・ワートは、肝薬物代謝酵素を誘導するため服用中の医薬品の血中濃度を低下させ、薬物の効果を減弱させることが報告されている。ドイツや韓国では医薬品であるために薬剤師が扱うので問題ないが、我国では一般小売店で販売されているので、医薬品服用者には極めて危険な状態である。

４．まとめ

サプリメントは、国民のQOL向上に寄与せんとするものではあるが、様々な問題を抱えているのも事実である。この多くの問題を早急に解決することにより、国民が安全に健康管理を行うことが出来るようになる。薬剤師として、植物性サプリメントやエッセンシャルオイル等を販売する時には、学名、栽培地、成分含量等が外箱に記載されている安全性の高いものを選ぶ必要がある。医薬品と同成分を含有しているサプリメントは、その一日量について注意が必要である。医薬品を服用している人に対しては、服用医薬品との相互作用が報告されていないかを確認する必要がある。サプリメントの中で有効性はあるが、有害成分を含有するものや医薬品との相互作用が確認されている危険なものは、一般用医薬品とする改革が望まれる。これは、厳しい規格を合格したものを薬剤師の指導の下で使用することが、国民の安全を担保することになる。また、食薬区分では、全てのものの基原を確定させるために学名の記載が急務であるとともに、有害成分を含有するものは早急に削除すべきである。

著者略歴

安川　憲（やすかわ　けん）
日本大学薬学部
セルフメディケーション学ユニット教授

昭和48年　日本大学理工学部薬学科卒業
平成２年　医学博士
同　５年　日本大学専任講師
同　７年　ロンドン大学薬学部客員研究員（１年間）
同　12年　日本大学助教授
同　16年　日本大学教授
同　18年　韓国中央大学校薬学大学客員研究員（１ヵ月間）
厚生労働省「一般用医薬品としての生薬製剤（西洋ハーブを含む）の審査のあり方に関する検討会」委員(平成15年)
日本薬学会　ファルマシア　トピックス小委員会委員（平成12～15年）
日本薬学会　代議員（平成18年～）
日本薬学会関東支部会　幹事（平成18年～）
日本薬剤師会「薬剤師業務に関する特別委員会」委員（平成16～18年）
セルフメディケーション推進協議会（NPO）理事（平成17年～）
著書　『資源天然物化学』共立出版、『資源・応用薬用植物学』廣川書店、他。

日本大学薬学卒後教育100回記念講演会を終えて

日本大学薬学卒後教育17年度委員長　教授　伴　野　和　夫

日本大学薬学卒後教育100回記念講演会が11月17日に御茶ノ水のに日大カザルスホールで来賓に医学部長の片山容一教授をお迎えして開催されました。安西薬学部長の挨拶の後、片山容一先生からは医学部と薬学部の今後の連帯と協力について薬学教育への理解あるお言葉を頂きました。講演は当大学の安川教授と東京大学薬学部の澤田教授によって「サプリメントの現状と将来」と「薬剤師は処方設計コンサルタント」と題して行われました。参加者はおよそ250名で主催者といたしましてはうれしい限りです。終了後の懇親会にも沢山の方々にご出席いただき、しばし同窓会の総会の様な和やかな会となりました。

日本大学薬学卒後教育は平成元年５月に桜薬会(薬学部校友会)の主催で始まり、足掛け18年の長きを要して100回を迎えました。当時の桜薬会の幹事の方々の大変なご努力で開始されたものです。第一回は薬剤師会の専務理事でありました小宮宏宣先生が「薬剤師職能の現状と今後の課題」と題して講演されました。開始当時は院外処方箋が始まり、医薬分業の草創期だったように思います。また一方では新しい概念に元ずいた新薬が登場し、新しい知識を得る必要にせまられていたようにも思います．そんなことで、船出としては上々でした。数年するとその機運も醒めたのか、参加者が減ってまいりました。ここ３年位でしょうか、薬剤師教育６年制の実現が現実味を帯びてきた頃から参加者が再び増加したように思います。このように、社会的機運が参加者の数を増やしたり減らしたりしているように思いますが、この講座自体は黙々と確実に実施されてまいりました。その結実が今回の100回記念であり、日本大学薬学部の実力の一端だと思います。主催は桜薬会から日本大学薬学部に移りましたが、現在でも桜薬会は講座に対して寄付をしております。薬学部が頂いて運営しております。本卒後教育は他大学の実施に比べかなり早い開始でした。現在も薬剤師免許の更新制度の導入が囁かれています。６年制の導入がそのきっかけになるのかも知れません。そんなことだけでなく、薬剤師を巡る環境は大きく変化しています。薬剤師は今、薬に関する現在の最新の知識を常に患者や社会に正しく伝える義務があります。それらに対応するためにも、日々の勉強が要求されています。これから益々卒後教育の必要性は増して来ますので、本講座の重要性もまた増してくるのだと思います。

講師には日本大学医学部、薬学部の先生方の絶大なるご協力を頂いており、このお力が本講演会を続けられる大きな理由になっていると思います。また、関係各位のご理解により、日本大学本部の大講堂はこの会のために年間を通じて優先的に確保して頂いており、しかも無料で会場を提供していただいております。開始以来、当日の準備と運営は研究室持ち回りで行われおり、一般教育の先生から専門の先生まで学内の全ての先生が当番ででています。さらに、諸般の連絡は庶務課が一手に引き受けており、100回の記念講演会には総出でご協力いただきました。このように多くのご協力があり現在に至っております。特筆すべきは中村健前教授（薬事経済学）が13年間委員長でご苦労頂いたことです。この会の参加者の数は演題により大きく変わります。固定された聴講者が少ないのです。多くの方に聴講頂くためには、薬剤師がそのとき欲している話題を見つける必要があります。そうでないと、なかなかご参加いただけませんので、これに骨が折れます。今は「同じ日に都内や近隣の街でいくつもの講座が開催されている。」そんな時代です。過去には、参加者が200人近い時から30人ぐらいの時もありました。このごろは80人ぐらいで安定しています。認定薬剤師のためのシールは毎回１点を配っております。地方のOBからは「土曜日に開催をしてほしい」との要望も聞いておりますが、総合的に考えしばらくは今のままで開催してまいります。この講座は皆様のご協力無くしては運営できませんので今後ともご協力をお願い致します。

卒後教育講座のご案内

平成17年度卒後教育委員長　教授　伴　野　和　夫

前回の本案内で１月の開催日と３月の開催曜日が間違っておりました。関係の方々に多大のご迷惑をお掛けいたしました事を陳謝いたします。今後この様な事の無いように注意してまいりますので、今以上のご協力をお願いいたします。

尚、本講座は奇数月の第２木曜日開催が基本ですが、１月につきましては第３木曜日開催で行なう予定です。

５月11日（木）「患者のための薬物動態学を学ぶ（２）―５つの指標,F,Vd,CL,fuB,Aeをどう使うかー」
日本大学薬学部臨床薬剤学　教授　松本宜明　先生

前回に続きご講演をいただく。実際に現場でどの様に数値を使って判断するのか、分かりやすく解説いただく。

当番　薬品分析（内倉教授他）、有機化学（宮入教授他）

７月13日（木）「抗がん剤臨床開発と個別化投与にむけて」
国立がんセンター中央病院内科部長　田村友秀　先生

先生はがん治療で現在の日本のトップを走っている医師の御一人であり、内科医でがんの薬物治療では日本屈指の専門家と考えられており、肺がんが専門分野である。今回は、現在の最先端の紹介、また薬剤師がどのように関って行くのか、これから期待する事はなにか。などについてご講演いただく。

当番　薬品分子化学（本橋教授他）、薬品物理化学（斉藤（好）教授他）創薬化学教育（道祖土助教授）社会学（伊藤等講師）

９月14日（木）「外来化学療法における薬剤師の役割」
日本大学医学部付属板橋病院　薬剤部長　牧村瑞恵先生

外来での化学療法はどの病院でもおこなわれているが、専用の化学療法室を設け、専任の薬剤師と看護師が関与することで、外来化学療法加算が取得できる。そのため、今後多くの病院に普及していくことが考えられるが、医療経済のみならず、医療安全に対する薬剤師の役割は大きい。そこで、外来化学療法室開設までの経緯と薬剤師のかかわりについてご講演いただく。

当番　臨床医学（鈴木(孝)教授他）、薬学教育（小池教授、高畠教授）、病院薬学（中村均教授）

第4回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

日本大学医療系同窓・校友連絡会前幹事　鈴　木　　孝

平成17年9月17日（土）、日本大学医療系同窓・交友学術講演会が「医療領域における最近の話題」をメイン・テーマに当番幹事の松戸歯学部主催により、日本大学会館大講堂で開催されました。

松戸歯学部同窓会橋本洋子副会長の司会で、まず、松戸歯学部同窓会の新井謙寿会長がご挨拶された。続いて、９月にご就任された小嶋勝衛新総長が新任のご挨拶をされて、日本大学の今後の展望について話され、更に、このような講演会を通して、同窓の成果がいつでも見られる教育機関でありたい旨のお言葉を頂いた。また、堀江孝至医学部長、中村武夫歯学部次長、安西偕二郎薬学部長がご来賓として紹介された。

第１講演は新井謙寿松戸歯学部同窓会会長の座長により、「バイオサイエンス応用による生命科学的歯科医療」という演題で我孫子宜光松戸歯学部生化学・分子生物学講座教授（昭和47年日本大学歯学部卒）が講演された。口腔感染症（歯周病菌など）が肺炎、糖尿病、肥満などの生活習慣病や老化の引き金となっていること、バイオサイエンスを用いた諸種の歯科医学・医療について最近の進歩状況について例を挙げて解説された。歯周病菌の遺伝子クローニングによる特許取得など、最先端のバイオサイエンスのお話しを聞くことが出来た。第２講演は岡野匡雄医学部同窓会渉外担当理事の座長により、「心臓血管外科手術の最近の進歩」という演題で天野篤順天堂大学医学部心臓血管外科教授（昭和58年日本大学医学部卒）が講演され、最近の低侵襲冠動脈バイパス術について、その歴史的進歩を話されながら、ご自分の低侵襲バイパス手術を例にしてリアリティのあるビデオを使って分かりやすく解説して下さった。また、若くして教授になられ、順天堂大学医学部附属病院ではアクティブに治療にあたられていることうかがえた。第３演題は倉林恵太郎生物資源科学部獣医学科校友会東京角笛会会長の司会により、「ペットと楽しく暮らすために―人と動物の共通感染症を正しく理解する―」と題して、丸山総一生物資源科学部獣医公衆衛生学研究室教授（昭和57年日本大学農獣医学部獣医学科卒）が講演され、日本で空前のペットブームを背景に、狂犬病、猫ひっかき病、パスツレラ症、オウム病、インフルエンザなど、人と動物の共通感染症について概説され、その予防や治療についても解説された。第４演題は堀部武男歯学部同窓会学術委員会委員長の座長により、「閉塞型睡眠時無呼吸症候群への

歯科的対応」と題して、祇園白信仁歯学部歯科補綴学第I講座教授（昭和53年日本大学歯学部卒）が講演され、運転手と危険な事故との関係が報告されている閉塞型睡眠時無呼吸症候群に対して、口腔内装具を用いた歯科的治療のアプローチについて講演された。歯科的面からの疾患の治療に結びつく興味ある講演であった。第５演題は鈴木孝薬学部臨床医学研究室教授の座長により、「法的な情報源―医薬品添付文書のはなし―」と題して、小清水敏昌順天堂大学医学部附属浦安病院薬剤科長（昭和42年日本大学理工学部薬学科卒）が講演された。医薬品による医療事故が多数報告されている昨今、公的情報源となる添付文書の重要性、見方、使い方について、例を挙げて講演して頂いた。薬学を専門とする以外の人達にも、多いに参考となる講演であった。５つの講演はいずれも学部・学科に特徴を置いた演題ではあったが、他学部の専門外の者にも多くの刺激を与えて下さった。

講演会終了後は、同会場で懇親会に移り、辰野隆松戸歯学部同窓会理事の司会で懇親会が行われた。時間の関係で質問できなかったことなど、学部を超えて意見の交換が行われた。参集人数は179名（薬学部42名、松戸歯学部30名、歯学部56名、生物資源科学部22名、医学部18名、一般11名）であった。

来年度も日本大学会館で、次回当番幹事の生物資源科学部獣医学科校友会角笛会の主催で開催される予定です。多数の方の参加をお待ちしております。

平成19年度日本大学薬学部入学試験期日及び科目等

	一般推薦入学試験（一般公募）	一般入学試験	校友子女入学試験
1 募集人員	30名	115名	５名（合格基準に達しない場合には，合格者数が募集人員に満たないこともあります）
2 出願資格	本学部での学業を強く希望し,合格した場合,本学部に入学することを確約できる者で次のいずれかに該当し,出身学校長が推薦する者 ①高等学校もしくは中等教育学校の普通科又は理数科を平成19年3月卒業見込みの者で,高等学校第3学年第1学期までの全体の評定平均値が3.5以上の者 ②高等学校もしくは中等教育学校の普通科又は理数科を平成18年3月に卒業した者で,卒業時の全体の評定平均値が3.5以上の者	日本大学入学試験要項に同じ	①大学入試資格を有し,本学への入学を第一希望とする者で,次のいずれかに該当する校友の子女（2親等内直系血族）である者 （ア）以下に示す,学校法人日本大学寄附行為施行規則第8条に規定する「学校法人日本大学が設置する学校」を卒業または修了した者 ［学校法人日本大学が設置する学校］ ●日本法律学校●高等工学校及び工業専門学校●東洋歯科医学校及び歯科医学校●東京獣医学校●専門学校令による専門学校,専門部,高等師範部,高等専攻科及び師範専修科●東京高等獣医学校及び東京獣医畜産専門学校●専門学校令による大学●大学令による大学及び予科,大学院及び選科●学校教育法（新学制）による大学,大学院及び短期大学 （イ）日本大学寄附行為施行規則第9条に定める推薦校友 （ウ）学校法人日本大学が設置する学校に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者 （エ）学校法人日本大学の役員または役員であった者 （オ）学校法人日本大学の特別付属・準付属校を設置する法人に勤務を有する専任教職員または専任教職員であった者。ただし,特別付属・準付属校を設置する法人は,平成18年4月1日現在のものとする ②合格した場合,本学部に入学することを確約できる者
3 出願書類	①推薦書 （学校長推薦書・自己推薦書） ②入学志願票 ③出身学校調査書	①入学志願票 ②出身高等学校調査書	①校友子女確認書 ②入学志願票 ③出身学校調査書等
4 選考方法	①書類選考 ②面接 ③参考試験 （マークシート方式） (1)化学Ⅰ・化学Ⅱ (2)英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング （90分）	学科試験（マークシート方式） ①理科：化学Ⅰ・化学Ⅱ ②数学：数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B （統計とコンピュータ及び数値計算とコンピュータを除く） ③外国語：英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング 理：60分,数：60分,外：60分；各100点	①書類選考 ②面接 ③参考試験 （マークシート方式） (1)化学Ⅰ・化学Ⅱ (2)英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング （90分）
5 出願期日	平成 18年11月1日（水）～6日（月）	平成19年1月8日（月）～29日（月）	平成18年11月1日（水）～6日（月）
6 選考日	11 月8日（水）	2月5日（月）	11月8日（水）
7 合格発表日	11 月10日（金）	2月7日（水）	11月10日（金）
8 入学手続期間	11月13日（月）～11月24日（金）	2月8日（木）～16日（金）	11月13日（月）～11月24日（金）
9 入学検定料	未　定	未　定	未　定
10 試験会場	日本大学薬学部校舎	日本大学法学部三崎町校舎	日本大学薬学部校舎
11 出願書類送付先	〒274-8555　千葉県船橋市習志野台7-7-1　日本大学薬学部　Tel 047-465-8480（直通）		

付属高等学校等推薦入学試験Ｂ方式（募集人員50名）は、
11月８日（水）実施
付属高等学校等推薦入学試験Ａ方式（募集人員40名）は、
12月16日（土）実施

■進学相談会

進学相談会は随時実施しています。下記の行事の際に進学相談コーナがあります。

●オープンキャンパス　平成18年７月29日（土）
●学部祭（桜薬祭）　平成18年11月４日（土）　５日（日）
＊詳細については薬学部ホームページをご覧ください。

研 究 室 だ よ り

生薬学研究室 （３号館２階322）

日差しも日々強まり、木立の芽も脹らんで春近しと感じられる季節になりました。桜薬会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶びを申し上げます。

生薬学研究室の近況についてお知らせ致します。前会報にご報告致しましたが、昨年春の叙勲受章において滝戸道夫名誉教授が瑞宝中受章の栄によくされ、７月24日、新高輪プリンスホテルで叙勲祝賀会を開催いたしました。多くの会員の皆様のご出席をいただき、和やかな祝賀会となりましたことを改めてお礼申し上げます。

さて、平成17年度の卒業研究生は、10名（男子３名、女子７名）が配属され、生薬や放線菌の代謝物の成分研究や栽培などの研究課題に取り組み、12月27日行われた卒業研究発表会で研究成果を披露してくれました。現在は、国家試験に向けて猛勉強中であります。また、大学院には、博士後期（博士）課程に李賀然（中国医学科学院薬用植物研究所卒）さんが、博士前期（修士）課程に、安藤成紀、伊藤匡伸、石川貴之、菱山和義さんが昨年４月より加わり、研究室は博士前期の野中敬司さん、研究生の小林英文さん、岩田直樹さん、甕 常岳さん、王 珏さん、楊　志剛さん及び教員（松崎、大根谷、北中）で研究を進めております。

研究室旅行においては、研究室の伝統としている植物の多い山で合宿することを続けております。８月上旬には箱根に出かけ、ロープウェイで駒ヶ岳に登りましたが、「雨にも負けず、風にも負けず」と強風と霧の中でシモツケ、シモツケソウやノリウツギなどがピンクや白い花を付けておりました。その中で我々もお弁当を戴き、その後、強羅まで下山しましたが、これが想いの他アルバイトとなりました。二日目は、箱根ベゴニア園で色とりどりのベゴニアを見学し、鈴廣かまぼこ博物館により各自かまぼこ作りに挑戦しました。皆それぞれの出来映えに満足し、絆が深まった二日間の旅行となりました。

以前より乾燥地の薬用植物の研究を行ってまいりましたが、昨年８月末には、北京で開催された第２回国際沙棘大会に大根谷さんが参加発表いたしました。また、９月末には、北中が中国科学技術部と衛生部が主催する第２回中医薬現代化国際科学技術大会に招待参加し、日本の漢方の現状について紹介いたしました。発表人数が1200名（海外から200名）で参加人数は5000名という大きな大会で、四川新聞には私の講演の写真が報道されており驚きました。また、この大会では、生薬学研究室出身で㈱ツムラの戸田光胤（95年卒）さんも参加されており、大変お世話になりました。

今年のりんどう会は、２月19日に東京ステーションホテルで36期、37期の幹事により開催され、65名の参加をいただき滝戸先生や山内先生と久しく歓談することができたことと思います。例年のように講演会の後には、総会と懇親会が行われました。原田貞亮会長のご挨拶の中には、りんどう会のより発展を目指し、りんどう会会員の皆様からいろいろなご意見を伺いたいとのお話がありました。この場をお借りしてご意見やご協力をお願いしたい次第であります。また、今以上に卒業期の垣根を越えたより活発に活動できるりんどう会になっていくことを願っております。

末筆になりましたが、会員の皆様のご多幸とご活躍を祈念すると共に、今後ともよろしくご支援お願い申し上げます。　（北中　記）

薬品分析学研究室 （３号館３階331）

桜薬会会員の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

薬品分析学研究室の近況をお知らせ致します。昨年10月より分析センターの木村由美子先生が当研究室の所属となり、今年度から助教授に昇格されました。紹介が遅れましたが、私(古谷）は昨年４月から助手としてお世話になっており、現在は教員４名（内倉教授、四宮助教授、木村助教授、古谷）で日々薬学教育・研究に励んでおります。大学院生及び学生の近況ですが、今年３月に医療薬学社会人コースの北市裕子さんが「液体クロマトグラフ質量分析法による環境水中の医薬品分析」のテーマで博士前期過程を無事修了し、４月から後期課程に進学しました。お仕事が忙しい中、平日仕事を終えてから大学に来て実験をするなど大変研究に熱心であり、研究成果を日本薬学会第126年会で発表しました。現在は博士後期課程１年生が２名、博士前期課程２年生が４名（社会人コース１名、薬学コース２名、医療薬学コース１名） 在籍しています。社会人コースの小林直子さんは日本大学光が丘病院で薬剤師をしながら研究に励んでいます。薬学コースの野伏康仁君、林智久君は日々研究に取り組み、４年生の卒業研究の良きアドバイスをしてくれています。医療薬学コースの多喜しをりさんは１年生の後期から半年間、横浜労災病院で長期実務実習を終え、５月の実務実習報告会の準備をしながら研究に励む毎日です。

昨年度の卒業研究生は10名（実験組８名、演習組２名）が配属され、日々熱心に卒業研究に取り組んでいました。卒業論文も無事提出し、何名かは日本薬学会第126年会に

おいて筆頭演者として発表することが出来ました。研究を頑張った勢いのまま、総合講義試験（卒業試験）及び国家試験を乗り切っている様子でした。また、毎年恒例の卒研旅行ですが、昨年は10月９、10日に日光を訪れ、日光江戸村を観光しました。休日のため社会人大学院生も参加して頂き、より親睦の深まる楽しい旅行となりました。

新年度の卒業研究生は13名（男子３名、女子10名）が新たに配属され、女子が多いため、より一層賑やかになりそうです。今年度から薬学教育も６年制となり、４年制の学生の教育をしながらの取り組みの為、忙しい一年なるかと存じますが、先輩諸氏の御指導御鞭撻を賜りつつ、新たな気持ちで取り組んで参りたく存じます。

最後になりましたが、会員の皆様の御健康と御活躍をお祈り申し上げます。（古谷　記）

有機化学研究室（３号館３階332）

桜薬会会員の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。有機化学研究室の近況をお知らせ致します。

平成17年度の卒研生は12人（男性８名、女性４名）が配属となりました。卒業研究期間中は研究室が活気に溢れ、それぞれが精力的に研究に取り組み、初めての経験に苦労しながらも卒業論文を書き上げることができました。約半年間共に研究し、学生が力強く成長していく姿をはっきりと見ることができました。恒例の卒業研究旅行として、昨年８月８日から９日にかけて水上温泉に行きました。温泉卓球大会、川辺での花火また大自然の中でのラフティングでは、全員が満面笑みに溢れ、互いに親睦を深めることができました。

大学院生は、今年３月に上田千尋さん、神田裕子さん、大崎隆晴君、菅原悟君、鈴木健史君、住吉祐介君が研究成果を修士論文にまとめることができました。住吉君は昨年10月に神戸で行われた第78回日本生化学会大会において、ポスター発表を行いました。また、博士前期課程２年生全員の研究成果は、今年３月の日本薬学会第126年会で発表することができました。研究で困難に直面したときにお互いに励まし合い、一生懸命に研究に取り組む姿がとても印象に残りました。６人の今後の活躍が期待されます。博士前期課程１年に在籍している建川一朗君は、積極的に実験に取り組み、夜遅くまで頑張っています。

今年度は16名（男性５名、女性11名）の卒研生が新たに配属され、教員と学生、合わせて24名で研究を行っています。それぞれの個性を大切にしつつ、研究室が一つになって研究に取り組んでいきたいと思います。

教員は、宮入伸一教授、三宅宗晴助教授、内山武人専任講師、助手として私、齋藤弘明の４人で研究および教育にあたっています。私は有機化学研究室に着任して３年目になります。薬学部は志の高い学生や暖かい先生方に恵まれており、このような環境下で教育研究活動に当たることに遣り甲斐を感じつつも一層身を引き締めて頑張っていきたいと思います。

薬学部は今年６年制へ移行し、まさに激動の時代を迎えています。会員の皆様方には今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、会員皆様の益々の御健勝と御多幸をお祈り申し上げます。（齋藤　記）

薬品分子化学研究室（３号館３階334）

春の光が燦々とふりそそぐ陽春四月を迎えました。桜薬会会員の皆様におかれましては、益々のご健勝のこととお慶び申し上げます。早速ですが薬品分子化学研究室の近況を御知らせ致します。

当研究室は桜薬会会員の皆様方にとって耳新しく聞こえるでしょうが、前身を化学研究室とし、薬品分子化学研究室として一層薬学教育に根付いたより高度な専門知識を学生に教授するために再出発を致しました。本橋重康教授をはじめとし、鳥山正晴専任講師、ならびに私、三浦基文助手の３人で研究室を運営しております。

平成17年度の卒業研究生は女子５名が配属されました。研究室のスタッフが男性一色であるのに対し、学生が女性一色であるといった非常にユニークな形態での卒業研究でしたが、男性スタッフに負けないくらいの高いバイタリティーと、相反する淑やかな一面で活気に満ち満ちた卒業研究を行ってくれました。研究室全体の雰囲気も大変よく、バーベキューやコンパ等様々企画し、そしてすぐに実行したことに職員一同よく驚かされたものです。そのように明るかった卒業研究生が今では、総合講義試験及び国家試験に向けて皆、英姿颯爽としております。このまま全員が無事に卒業し、晴れて国家試験に合格して社会に出られる事を薬品分子化学研究室員一同祈るばかりです。卒業後の進路は調剤薬局、ドラッグストアー、そして企業と様々ですが、皆、希望した進路に決定し、今後は校友会諸兄姉のお世話になることも多くなると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしく御願い申し上げます。

本年度からいよいよ薬学部６年制が開始されました。いままでの４年制と新しい６年制の混在した過渡期での教育は非常に厳しくなると思いますが、今後とも御助言下されば幸いです。

平成18年度は卒業研究生が13人（男子６人、女子７人）という大所帯になる予定です。昨年、一昨年と女子学生が多かったのに対し、18年度は男女に均衡が取れた形となりました。すぐにでも研究をやってみたいという学生が多く、やる気が結果に繋がる分野ですので本年もまた優秀な結果を残してくれそうで今から楽しみにしております。

最後になりましたが、会員皆様のご健勝と益々のご発展を心よりお祈りいたします。（三浦　記）

薬剤学研究室 （３号館４階341）

卒業生の皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。さて、昨年10月の同窓会には花野先生を始め多くの方々においでいただき、盛大に開催する事ができましたことを厚く御礼申し上げます。

さて、薬剤学研究室の学生、院生、スタッフも皆相変わらず元気に勉強に研究に勤しんでおります。昨年、ドイツに半年留学した石井君も無事帰国し、今は授業と研究に追われる毎日のようです。昨年からフロンティアに関する研究で特許を２件申請し、さらに１件申請中です。特許の１つは、鈴木講師が研究していたペンタゾシンを使い、古石助手が尾田さんや伊尾君（M2）らの協力で経皮吸収製剤を開発研究しました。まだ研究は半ばですが何とか実用化されればと考えております。共同開発してくれる企業があるといいのですが。この様に研究室の中で、製剤と動態の研究がうまく回りだしました。深水助手の研究も順調に進んでおり、大変に面白い研究になってきています。社会人大学院に所属していた、加藤直人先生も無事修士課程を修了し、仙台の学会で発表しました。仙台の学会では薬剤研究室で９件の発表を致しました。中でも伊尾君の発表は学会のハイライトに選ばれました。院生３名の就職ですが、尾田さんは東海大学八王子病院、酒井さんは東海大学伊勢原病院、在間さんは国立病院（しばらく、国府台病院で臨時）、と病院に就職できました。M2の石井君はデグサジャパンに内定しています。伊尾君は調剤薬局を希望しており、先日は同窓生の商さんに、就職の相談に行ってまいりました。先輩の所を見せていただき、目を輝かせて帰って来ました。卒研生も２名の卒業は遅れましたが、みんな、今ごろは先輩諸氏のお世話になっていることと思います。求人のご案内をいただきながら、十分にお答えできていない所も沢山ございますがご容赦下さい。いつも先輩諸氏にはお気に掛けていただき、感謝しております。今年は千葉大学の堀江教授の所と共立薬科大学の菅家教授の所へ各１名進学し、薬剤の研究室にも２名が進学してきました。昨年は日帰りで、益子に行ってまいりましたが、スタッフからは「やっぱり１泊しないとなー」などの感想も聞かれ、「今年は泊まるぞ！」と学生にはすでに宣言しております。

国家試験が厳しくなっている事から、この頃は卒業研究にしわ寄せが来て、期間が短くなり、実質１ヵ月しかありません。そんなこんなで、今年は２月から新４年生に研究室に来ていただき、練習を始めました。来年は14名の卒論生が所属します。先輩方には益々お世話になる機会が増える事と思いますが、よろしくお願い致します。

最後になりましたが、皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。（伴野　記）

薬品物理化学研究室 （３号館４階342）

桜薬会会員の皆様には、多方面でお元気にご活躍のことをお慶び申し上げます。薬品物理化学研究室の近況をお知らせします。

本会報の会合予告にもお知らせしましたが、当研究室の小川尚武教授におかれましては、平成18年３月をもちまして定年により退職されることになりました。先生は、昭和63年４月熊本大学薬学部より当研究室に助教授として赴任され、平成11年より教授として薬学部の発展ならびに教育・研究にご尽力されました。先生の永年のご苦労とご恩に感謝の意を表したく、当研究室同窓会（薫会）では、祝賀会開催（日時：平成18年７月９日（日）12：00より、場所：市ヶ谷アルカディア）の準備を進めております。薫会会員の皆様には、別途案内状をご送付いたしまので、ご多用のこととは存じますが万障お繰り合わせの上、ご出席いただけますようお願いいたします。

平成17年度の卒業研究生は13名（男性２名、女性11名）、また、大学院生は博士前期課程（修士）に新たに１名（藤本君）が加わり、修士２年３名（井上君、大橋君、影山君）の計４名（男性４名）が配属されました。研究室のスタッフは、小川尚武先生を中心に、齋藤好廣先生、橋崎要先生と田口の４名で、教育・研究の充実にがんばってまいりました。その中で、2005年度材料技術研究協会討論会（平成17年12月10日（土））において、影山君（M2）が「優秀学生講演賞」を受賞、井上君（M2）が「ゴールドポスター賞」を受賞するというすばらしい業績を残すことができました。また、私ごとで大変恐縮ですが、昨年６月に私（田口）は、日本大学より博士（薬学）の学位を取得することができました。これも、小川先生をはじめ、諸先生方、同窓の皆様のご指導・ご鞭撻によるものであり、この紙面をおかりして御礼申し上げます。

次に、研究室恒例の研修旅行についてですが、昨年８月に１泊２日で箱根方面へ行き、登山鉄道、ケーブルカー、ロープウェイ、遊覧船（写真は、その時のものです。）などに乗り、箱根観光を楽しむとともに大変有意義に親睦を深めることができました。現在は、卒研生および大学院生（M2）は、卒業論文および修士論文を書き終え、それぞれ違ったみちに進みますが、本学卒業生として胸を張ってがんばっていただきたいと思います。

平成18年度より薬学部は、６年制がスタートします。薬科大学の増設・増員が行われ、薬剤師国家試験の合格率が懸念される中、研究室スタッフ一同さらなる教育・研究の向上に努力する所存ですので、皆様のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と一層のご活躍をお祈り申し上げます。（田口　記）

物理学研究室 （3号館4階344）

桜薬会会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。物理学研究室の近況をご報告いたします。諏訪雅士副手が平成17年3月末をもって退職致しました。諏訪君は、母校日本大学大学院理工学研究科に進学し、現在素粒子論の研究に勤しんでおります。平成17年4月からは新たに森啓助手を迎えました。森助手は、博士の学位を既に取得している少壮の研究者であり、研究だけでなく学生とのコミュニケーションにおいても大いに期待しているところです。従って現在研究室のスタッフは、小林宏司専任講師、森助手そして大島の3人です。気持ちも新たに教育研究に励んでいく所存ですので、会員の皆様のこれまでにも増したご助力をお願い致します。

平成17年度の卒業研究生は男性1名、女性5名の計6名と久方ぶりに男性希望者が現れました。私のような年寄りは、紅一点ならばやっていけるが、黒一点では・・・などという古い言い伝えを思い出し心配致しましたが、取り越し苦労のようで和気藹々とやっており、時代の流れを感じさせられました。9月には熱海に卒業旅行に行き、熱海の歴史に触れたり、美術館の見学等有意義な時間を過ごすことが出来ました。

現在（1月20日）は卒業研究も終わり、総合講義試験ならびに国家試験向けて追い込みの勉強に勤しんでおります。この会報が届けられる頃は結果も判明しているわけですが、全員に桜の花が咲いていることを心より祈っているところです。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。（大島　記）

臨床薬剤学研究室 （3号館4階345）

桜薬会会員の皆様におかれましては、各方面において益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。

当研究室の様子を報告させていただきます。4年生は無事卒業論文の提出、総合講義を終了し、卒業試験、国家試験にむけてラストスパートをしています。卒業論文として小山助手指導による市川賢芳；薬局におけるプライバシー問題と薬局薬剤師によるプライバシーの保護の現状、九川助教授指導による藤田実央子；Chariotを用いたPC-12細胞へのβ-galactosidaseの導入、松本指導による西川美紗子；アセトアミノフェンの測定方法および鎮痛効果に関する研究が研究室に残され、これらは内容、新規性ともに評価できるものでした。研究コースの学生は、研究の醍醐味を実感していただけたことと思います。演習コースの学生、井上充君、上西正隼君、岸野真理子さん、井原亜紗美さん、平子めぐみさん、末光朋子さん、佐藤早さんは休まず授業を受けていました。その成果がでると思います。院生の深澤亜季子さんは、修士論文作成に頑張っています。研究室では9月には院生と研究生、総勢10名で第1回薬物動態セミナーを軽井沢研修所で行ないました。秋の軽井沢は非常に美しく、紅葉には早いですが、肌寒いキリットした空気の中で勉強をしました。メーカー所属の研究生からベイズの予測性およびNONMEMについての基礎講義が行なわれ、相互に交流をしていただきました。11月には4年生と、勉強強化体制に突入する区切りとしてロブスターパーティーを行い、楽しい思い出を作りました。12月には3年生の研究室配属が決定しました。新たに13名の学生が研究室に来ていただけることになりました。1月には、3年生と院生、研究生の総勢13名で、軽井沢研修所において第2回薬物動態セミナーを行いました。3年生にとっては薬物動態の授業がやっと身についてきたところですが、薬物動態の基礎について勉強しました。3年生は、軽井沢の駅を降りて-4℃に驚き、研修所の暖かさに驚き、食事のいいことに驚いていました。なぜかセミナーなのに、スキー、スノーボードが先に到着していました。長い休み時間には冬のスポーツを堪能していました。

今後研究室は、薬物動態に基づく医薬品適正使用、TDM、薬物動態/薬効解析などを特技とする学生、院生を育てて行きたいと考えています。春休みからは、3年生全員で英語を読んで、薬物動態などになれていただければと思っています。今後も勉強会、セミナーを企画して行きたいと考えています。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。（松本　記）

実験動物センター （4号館1階411）

実験動物センターは、平成12年3月に増築部分が完成し、同年9月に既存施設の改修工事が完了しました。

当センターは、空気清浄度の高い順に3階SPF区域（特定の病原体を保有しない動物）、2階クリーン区域（SPF動物に準じた動物）、1階再搬入区域（通常の動物）に分かれ、動物飼育室16室と実験室7室があります。増築部分の地下1階は排水処理施設があり、1階には管理室、動物受入室、ロータリー式ケージ洗浄機や大型の滅菌機が設置された中央洗浄室等があり、4階は空調機械室となっています。飼育されている動物は、マウス、ラット、モルモット、ウサギ、両生動物、魚類です。各飼育室は、年間を通じて一定の温度、湿度に保たれ、照明も自動制御となっております。

利用者には所定の講習会受講後、入退室を管理するIDカードが発行されます。この講習会では、動物に影響がある病原体の侵入を防ぐための帽子、マスク、専用衣の着用、履物の交換などの入室方法や各種制限の説明があります。

利用者には的確な利用方法が求められますが、整えられた環境、設備の中で実験を行うことができます。平成17年度利用者として164名（教職員等33名、研究生等2名、大学院生52名、学部4年生77名）の登録がありました。

管理・飼育に関する実務は、浅倉技手及び外部専門業者が担当しております。また、毎年、実験動物慰霊祭を執り行っております。（浅倉　記）

アイソトープセンター （4号館1階412）

薬学及び関連領域の教育及び研究でラジオアイソトープを用いる際の共同利用研究施設として、文部科学省の許可

を受けて昭和63年に薬学部校舎４号館に設置されました。施設の安全管理は、薬学部放射線障害防止委員会が担当しております。

センターには放射線取扱主任者を兼任している実務担当の技術職員が常駐しております。

平成17年度の登録者数は116名（教員：32職員：１、大学院生：39、学部４年生：44）で、施設への入退出にはIDカードを使用しております。

本年度、トレーサー実験に使用した主な核種は、^{32}P、^{3}H、^{14}C等でした。

また平成17年６月に改正された放射線障害防止法に基づき、放射線障害予防規程を本年４月１日に改正致しました。

最後になりますが、本施設の開設時より放射線取扱主任者に選任されていた薬品物理化学研究室の小川尚武教授（10期）は、定年の為ご退職されました。先生は約18年間本学部の放射線施設の安全管理にご尽力され、無事故でその任務を全うされました。この間に多くの事を先生から学びました。誠に有難うございました。　（井熊　記）

研 究 室 同 窓 会

機能形態学研究室同窓会

機能形態学研究室同窓会は、２年ぶりに銀座のGINZA 1st5 GARDENで、平成17年９月３日（土）に行われました。卒業生、大学院生、卒研生の総勢35名の方々に御参加頂き、教員一同、改めて御礼申し上げます。短い時間ではありましたが、さまざまな分野でご活躍の卒業生の皆様と旧交を温め、楽しいひと時を過ごすことができました。次回の同窓会にも多くの卒業生に御参加頂けますよう宜しくお願い致します。最後になりましたが、会員の皆様の御健康と益々の御活躍をお祈り申し上げます。

（益子　記）

第1回　臨床医学研究室同窓会

ようやく暑さも和らぐ平成17年９月23日、東京、六本木のセンチュリーコートにて、臨床医学研究室発足以来初となる研究室同窓会を開催いたしました。臨床医学研究室の前身である臨床薬学研究室が設立されてから６年目であり、同窓生の数が少ないにもかかわらず、鈴木　孝　教授以下、総勢27名もの参加者が集う、にぎやかな会となりました。平成15年度より小野先生が助教授、田畑が助手として加わり、在籍する学生数も増え、研究室の雰囲気も変化しつつある中、みな一同に研究室に在籍した頃の思い出話や、現在の活躍ぶりを語り合い、和やかな時間は瞬く間に過ぎてゆきました。卒業してからあまり年月がたっていないためか、懐かしむというよりむしろ、それぞれの学生時代が所を変えて再現された様でした。発起人で幹事の山口さん、堀川さんには初の同窓会を成功させていただき感謝いたします。この同窓会が今後も続き、大きく膨らんでゆくことを願っております。

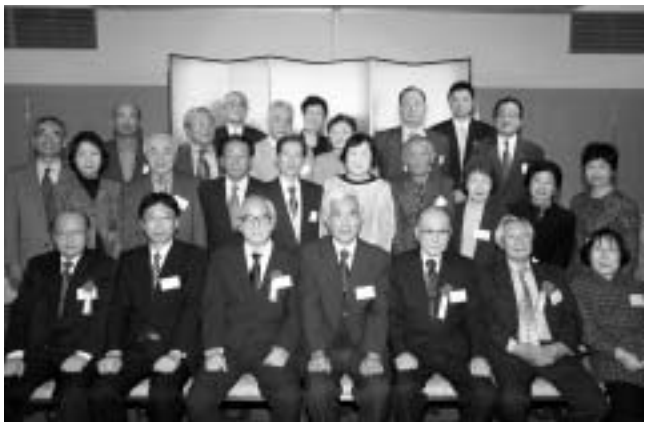
（田畑恵市　記）

第22回薬理学研究室同窓会（薬物同窓会）報告

第22回薬理学研究室同窓会（薬物同窓会）　総会および懇親会は、藤井祐一会長（15期）の指揮のもと平成17年11月26日（土）、アルカディア市ヶ谷にて開催されました。総会では、次期会長に高本和夫氏（17期）が選出されました。また、会則変更が承認され、これにより、会長と常任幹事に運営の大部分をお任せすることになり、各期選出の幹事の負担が軽減されることになりました。引き続いて行われた懇親会では、４名の来賓の先生（福田英臣先生、渡辺俊男先生、加藤宏一先生、小林保先生）をお迎えし、約90名の会員（本年度の卒業研究生７名を含む）が楽しいひとときを過ごしました。藤井会長の挨拶の後、伊藤芳久名誉会長(現薬理学研究室教授、22期）より研究室の近況と薬学部6年制に向けての大学の取組みが紹介されました。その後、福田英臣先生より心温まるお言葉をいただき、新村宗敏氏（１期）の音頭で乾杯し歓談に入りました。毎回参加してくださっている方も、また、卒業後始めて参加してくださった方も、先生方と、また、友人達と思い思いの話に花が咲き、予定された時間はあっという間に過ぎてしまいました。多分、二次会に行かれた方も多いのではないかと思います。私には渡辺俊男先生のお元気なお姿が大変印象深く残っております。

16～30期

薬理学研究室同窓会は２年に一度開催しておりますので、第23回の同窓会は来年（平成19年）秋の予定です。今回、残念ながらご参加いただけなかった方も、次回は是非ご出席いただきたいと思います。最後に、本同窓会開催にあたりご尽力下さった藤井会長および常任幹事（29、30期）の皆様に御礼申し上げます。　（石毛　記）



1～15期

31期～本年度卒研生（51期）

桜の木の下で

日本大学理工学部薬学科10期生卒業40周年記念同窓会

昨年の10月16日、深まりゆく秋に日本大学理工学部薬学科10期生卒業40周年を記念して、御茶ノ水ガーデンパレスにて中村泉美先生、澤村良二先生、杉井　篤先生、宮尾利政先生、小山　隆先生、椛澤洋三先生のご出席をいただき、総勢48名で同窓会を開催いたしました。

まず、開宴に先立ち、物故者石井一昭君、栗原正博君、重久政人君に黙祷を捧げて哀心申し上げました。只々無念の一言でございます。

小林郁夫君の挨拶に続き、お祝いにいらして下さった各先生方のお言葉を頂戴し、高橋捷泰君の乾杯で５年振りの懇談の始まりとなりました。

お久しぶりにお会い出来た杉井先生、相違も変わらず謡曲に精を出しエネルギッシュに活躍されている中村先生、又遠くは宮崎県から池脇松秀君、新潟県から小根山正意君、福島県から遠藤（山口）洋子さん達も馳せ参じて頂き、皆様の嬉しい顔、懐かしい学生時代の顔が入り交じり宴たけなわに広がる深遠な空間はまるで化学反応を起こして二重、三重に和気藹々の爽やかさが充満しておりました。生徒一人一人に注いで頂いた先生方の情熱が未だ息づいている様で、こうして一同に御会い出来たこと何ものに

も替え難い宝物という感を強くし、只々感謝の気持ちで一杯でございます。

宴途中で傘寿を迎えられた澤村先生のお祝いに村上（平山）良子さんから、一昨年喜寿を迎えられた中村先生のお祝いに山川（秋間）貴子さんから花束をお贈りし、錦上花を添えていただきました。最後に瀧下満之君、木村由美子さんの音頭で日大校歌を合唱し、お開きと致しました。それでもこの久しぶりの昂りを抑えきれず、殆ど全員でメモリアルパーティーをホテル壽楽に移し、飲むほどに酔うほどに、時を忘れての席となりました。我々も還暦を過ぎ、この様な貴重な会も５年毎では間が空きすぎるとの声もあり、次回は２年先を計画しようと考えております。今回出席出来なかった方々にも是非ご参加下さいます様宜しくお願い申し上げます。

先生方には大変ご多忙の中ご出席を頂き、これからも益々お元気でお過ごし下さいます様に、そして次回もご参加頂ければ幸いでございます。又お会いできる日を楽しみにしております。　（坂田　英明　記）

第７期同窓会報告

平成17年10月16日～17日、第七期同窓会が熱海一泊二日の日程で行われました。参加者は18名、集合場所は熱海駅。台風20号の接近であいにくの天候でしたが、前橋から東北新幹線で駆けつけた山口さん、館林の川生さん、柏の久田さん、江古田の守屋さん及び男性７名（住江、田中、小山、黄川田、久田、松山、藤原）計11名の元気な笑顔が東京駅に集まり熱海に向かいました。

熱海駅では豊田の安田さん、裾野の宮川氏、地元大室高原の今井氏、横浜の栗原氏、茅ヶ崎の中居氏の５名と合流し、その足でMOA美術館を訪れました。目指すエミールガレの特別展示は天候不順にもかかわらず予想外の賑わいで、常設の黄金の茶室や能楽堂も必見ものです。展示室からの曇天下の相模湾に初島がポッカリ浮かんで見え心を和ませてくれます。３時過ぎにホテルの送迎バスで美術館からホテルに直行、遅れて到着した深谷さん、松島さんと合流し、これで18名全員が集合となりました。

宿は地元今井氏の紹介による会員制ホテルで、風呂はもとより全室が海に面しており贅沢そのものです。初島を望みながらのんびりとお風呂で温まった後、浴衣姿で記念撮影を終え、さっそく宴会に移りました。飲み放題にもかかわらず皆さん話に夢中でアルコールはなかなか減りません。全員の近況報告が終る頃には所定の時間が過ぎ、場所を幹事部屋に移して話の続きが始まりました。

持参の日本酒、ワイン、つまみを囲みながら宮川氏の“10分で元気になる話”に座が一段と盛り上がります。各部屋（７室）の冷蔵庫のビールも次々に空になっていきました。時間を気にしないでワイワイと膝をつき合わせて飲むお酒は何にもまして美味しく、話は尽きませんが、零時前には健康第一とそれぞれ部屋に戻り、台風接近に荒れる激しい波の音を子守唄にして快眠です。

明けて17日は天候不順のため予定の初島行きを断念しましたが、その代わりに最近テレビで紹介された湯河原の回転寿司「花まる」で昼食をとることになりました。都合で早帰りするメンバーとホテルで分かれ、13名がタクシーに分乗して湯河原に向かいました。開店と同時に入店したため、３つのボ

ックス席を確保し、真鶴港直送の新鮮な海の幸をゆったりとした気分でいただくことができました。都内の回転寿司とは一味違う思いがけない旅の付録です。店からのんびり20分ほど歩いて湯河原駅に到着し、駅前で次会での再会を約して散会となりました。（藤原　記）

澤村良二先生傘寿お祝いカッパ会

平成17年11月20日(日)に久し振りのカッパ会が澤村先生の傘寿お祝い会として、アルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催されました。学生時代に先生と良く飲んで遊んだ１回生から30回生までの87名のカッパの弟子が勢ぞろいして、とても楽しい会となりました。

６回生の松島章浩さんの司会で、初代カッパ会長石田隆夫さんのお祝いの言葉に始まり、今の面影そっくりの澤村先生１歳お誕生日直前（大正15年12月）、７歳、１回生卒業アルバムから若かりし30歳、２号館屋上で撮影した期毎の卒業写真などを見ながら感無量の澤村先生のお言葉につづき、小山先生の乾杯の音頭でにぎやかに懇親会となりました。同期の仲間との久し振りの再会ににぎやかに時を過ごし、卒業生からのお祝いの言葉も今度からは事前登録してもらいましょうというほどに希望者が多く、盛大な会となりました。澤村先生も大変感激なさっておられました。早くも米寿の会に心がはしられております。相変わらずお酒に強く、本当にお元気でいらっしゃいます。今回も張り切って「河童の戯言」という小冊子を皆様のおみやげに作って下さいました。我々も先生に負けずに健康に気を付け、また次回のカッパ会で皆様にお目にかかれますよう祈っております。今回子育て中でご出席できなかった若い世代の皆様方とも次回は是非お目にかかりたいと思っております。（幹事一同）

第６期クラス会

平成17年11月26日、日比谷「うすけぼ」にて元副総長澤村良二先生、薬学部校友会会長山内盛先生を迎え盛大に開催しました。今回はクラスメート35名の出席者でしたが、今まで音信が途絶えていた加藤都喜雄君が44年振りに出席したことが最大の出来事でした。また今回はあまり出席のしていなかった木村（旧姓中上）晴代さん、三沢（旧姓高坂）光代さん達も出席の輪の中で談笑され、旧交をはかっていました。遠方からは北海道の加納利一君、愛知の羽田勝行君らも駆けつけてくれ会を盛り上げてくれました。

二次会は銀座のクラブ「南蛮」で行われ先生方、及びクラスメート20名が参加しあらためて話がはずみました。

今年は卒業45年の節目の年、11月に予定しているクラス会に多数出席されることを期待しています。又６月にはクラス有志における温泉旅行を計画しております。奮って参加のほどお願い申し上げます。

（前田敏晴　記）

日本大学・日本大学校友会ニュース

薬学部校友会は日本大学の組織の中でどのような位置にいるかご存じですか。

日本大学のホームページ（http://www.nihon-u.ac.jp/）を見て頂きますと校友会が大学の一組織として存在することをおわかり頂けると思います。

これまで本誌は薬学部校友会のニュースのみを扱ってきましたが、組織の一員として母校全体のニュースをお知らせするページを作り、ご紹介しますので期待して下さい。

日本大学11代総長就任

瀬在幸安総長の任期満了に伴い、昨年９月１日第11代総長として理工学部建築学科昭和38年卒業の小嶋勝衛教授が就任されました。先生は理工学部薬学科の期末試験の監督にもこられて居りましたから、多くの会員がお顔を拝見したことがあると思います。

先生は「教育現場があっての大学」「骨太の学生を育てたい」と選挙公約をなさいました。大学全入時代というのは数だけの問題ではなく、予想もしないレベルの学生が入学してくる可能性もあると言われています。また「本学の存在感を示そう」とも言われています。

予想もしないレベルの学生の入学が多くなったら、国家試験の合格率が低下することは火を見るより明らかです。教職員、校友がいかに努力しても大学、母校の評価は失墜してしまいます。校友としてはやりきれません。

小嶋総長は副総長３名のうち１人に安西偕二郎薬学部長を指名されました。

私たちはご両人にお祝いを申し上げると同時に小嶋総長・安西副総長を初めとする母校教職員の努力に期待をして行きたいと思います。

日本大学生涯学習センター（http://www.nihon-u.ac.jp/shougai/）

21世紀は知的創造、実現の時代と言われていますが、日本大学は時代を先取りして、平成16年度に「日本大学生涯学生センター」を開設しました。本学の総合大学としての特色を生かし、あらゆる学問分野に対応した教育研究活動を通じて創出された人的・知的財産を卒業生を初めとする社会の皆様に広く公開還元することを目的とした教学の一つです。

学内外から著名な文化人、知識人をはじめ各界で活躍されている方々を講師に招き、多くの人たちの関心が高い公開講座（文学・語学・歴史・環境・医療・ビジネスなど）を開講してきました。薬学部でも毎年１テーマを分担し、本年春講座は手塚雅勝教授がコーディネイターを務め、「知っておきたい暮らしの中の水と空気」の課題で開かれます。

講座は春期・秋期に分かれ、一般講座は４～５回、技術習得講座は12～15回の日程で行われています。卒業生の受講料は約20％の割引があります。

脳の若返りのためにも、もう一度頑張りましょう。

日本大学校友会（http://www.nihon-u.ac.jp/alumni/）

日本大学校友会は16学部支部・65都道府県支部・４職域支部・52桜門会と７海外特別支部で組織され、創設以来の全卒業生95万人が所属しております。薬学部校友会は学部支部の一つです。

昨年７月に開催された役員総会では会長に田中英壽氏（経済学部卒・JOC委員、本学常務理事）が選任されました。田中氏はこれまでも本部校友会の改革に尽力されてこられました。

運営は役員総会－常任委員会－会長・副会長会－常任会の議決機関と会長の下に総務・財務・企画・広報・組織の５常置委員会と箱根駅伝振興・校友会館設置の２特別委員会が会務運営に当たっております。事務の実務は大学本部に設置されている校友会事務局（事務局長：高松雄行氏、校友会本部長兼務）が当たっております。

薬学部校友会からは副会長として山内、常任委員として前田・渡邊、委員として小林・小清水・本橋、監事として原田（会報43号参照）が参画しております。ほかに高橋本会副会長が箱根駅伝振興特別委員会に参加しております。皆さんのお手元には会報「絆（きずな）」が届いていると思います。これは広報委員会の仕事です。

箱根駅伝振興特別委員会（http://www.nichidai-ekiden.jp/）は校友からの浄財を集めての活動です。正月２日・３日の風物詩として知られる箱根駅伝に母校代表チームの活躍を期待して、平成16年開催の80回大会から応援を始めました。今年は昨年に引き続き第３位の成績でした。来年は本年以上の活躍を期待しています。TVの画面に母校の応援旗が立ち並んでいるのをご覧になっていると思います。委員会の仕事で、会計は薬学部校友会が担当しました。浄財（募金）は各学部30万円を最低目標に集めて運営し、募金者には応援ガイドを贈呈しています。委員会のメンバーには校友であればどなたでも参加できます。委員会参加には薬学部校友会事務局まで申し込んで下さい。募金は郵便振替（口座番号：00120-8-724351、加入者名：日本大学校友会箱根駅伝振興特別委員会、１口：2,000円）にお願いします。

校友会は卒業生及び修了生全員を会員としていますが、正会員（個人及び団体）制度も併用しております。薬学部校友会は正会員（団体）として登録されており、分担金も

納付しています。正会員（個人）は年会費8,000円の納付が義務づけられています。正会員（個人）には会報「桜縁」と諸行事の案内が送付されます。また正会員（個人）に登録された場合、薬学部校友会に会費の一部が還付されますので、これは薬学部校友会会費の次年度分に充当されます。

薬学部校友会は10,520名の卒業生で構成されていますが、地方での行事には手が届かないのが現状です。日本大学校友会には95万余名の会員がおり、都道府県支部を持っております。また私たちは理工学部から分離独立した工学部・生産工学部と共に工科系４学部連絡会を持っていますがこの会も地方支部を持っております。これらの支部会への参加は自由です。人の輪が大きくなれば、これまた大きな力になると思います。皆様が積極的に参加されることを期待しております。　（山内　盛　記）

第82回箱根駅伝振興特別委員会募金　募金者芳名

薬学部校友会募金合計　293,000円

募金者一覧

（敬称略）

青木　正忠	飯田　龍男	石田　制利	石丸　末子	一ノ瀬　衛
牛込　陛阜	内倉　和雄	梅沢　芳史	大河内一紀	小川　尚武
奥山　　努	奥山　靖子	金子　春治	川島　仁子	木下　義文
草間　　貞	小久保光昭	小林　郁夫	斉藤　文夫	須賀　正道
鈴木　　孝	須田　篤博	高橋　繁治	髙橋　頼子	田中香代子
田中　雪葉	張　　煥貞	手塚　雅勝	土井　正道	徳竹　伯夫
長沼　邑子	野澤　克巳	原田　貞亮	藤村　幹夫	前田　圭一
前田　敏晴	松崎　桂一	松永　直樹	本橋　重康	森田　允子
山長みどり	山内　　盛	吉田　郁夫	吉田　哲朗	渡邊　和子

会務報告

総務委員会　学内委員会
財務委員会　ＩＴ委員会
事業委員会　事務局

平成17年度日本大学薬学部校友会奨学生決定

薬学部校友会奨学生選考委員会により、木村元気（４年）、齋藤　篤（４年）さんの２名が奨学生候補者として教授会へ推薦された。第11回薬学部教授会において承認され、12月15日に開催された奨学生証書授与式で山内会長から奨学金が授与された。

平成17年度桜薬会賞受賞者決定

薬学部校友会桜薬会賞の受賞者は学内委員会の推薦により、第16回桜薬祭を成功裏に終了させた功績に対して、実行委員長として活躍した薬学科　羽賀健悟さんに決定した。3月25日挙行された薬学部学位記伝達式において山内会長より賞状と記念品が手渡された。

平成17年度　第２回　運営委員会議事録

日　時：平成17年11月5日（土）　12：00～13：30
場　所：日本大学薬学部第２会議室　131号室
出席者：山内　盛（会長、４期）、渡邊和子（副会長　兼総務委員長、学内９期）、小林郁夫（副会長　兼財務委員会委員長、10期）、高橋繁治（副会長兼　学内委員会委員長、13期）、内倉和雄（副会長　兼　IT委員会委員長、学内14期）、草間　貞（財務委員会副委員長、学内16期）、立川真理子（学内委員会副委員長、学内20期）、本橋重康（副会長　兼　事務局委員長、学内21期）、鳥山正晴（事務局副委員長、学内30期）、前田敏晴（常任幹事　兼　日本大学校友会常任委員、６期）、小山隆（監事、１期）、長谷川　明（監事、５期）、齋藤好廣（監事、学内18期）

【報　告】

１．事業委員会（小清水事業委員会委員長　代理　本橋事務局委員長）

１）桜薬会会報43号発行について
前号までのものより紙質を良くし、発行日10月15日、印刷部数10,500部、発送9,185通との報告があった。

２）第３回日本赤十字社救急員養成講習会について
9月12日（月）～14日（水）に薬学部校舎で開講され、受講完了者29名の全員が試験に合格したとの報告があった。

２．学内委員会（高橋学内委員会委員長）

１）　第２回入会記念特別講演会「薬学の世界」について下記の通り新入会員（１年生）約200名の参加のもとで行われたとの報告があった。
日　時：５月14日（土）10：00～12：00
場　所：日本大学薬学部6号館階段教室
演題・演者：１.「薬剤師・・・元病院勤務薬剤師より」
神奈川県社会保険事務局保健課保健指導薬剤師　　平　林　哲　郎（７期）
２.「科学捜査研究所‥法科学と薬学‥」
茨城県警察本部刑事部科学捜査研究所
高　野　貢　司（24期）
３.「薬物治療のパートナーを目指して」
（株）グラクソ・スミスクライン
林　　礼　子（45期）

２）桜薬祭について
本日、学内委員会担当事業の校友会提供「桜薬クイズ」を実施し、１位～３位までの３組６名に奨学金（総額６万円）が授与されたこと。また桜薬祭参加の正会員・学生会員・特別会員全員に昼食券（500円）を配布したことが報告された。

3．IT委員会（内倉IT委員会委員長）

1）HPのリニューアルについて

桜薬会会報第43号を掲載したとの報告があった。

2）求人情報の掲載について

学生会員向けにHP上に毎週１回の追加掲載をしているとの報告があった。

4．事務局（本橋事務局委員長）

1）平成16年度総合講義試験問題集発行について

発行部数500部、価格￥1,900で販売中であり、卒研生への販売数と各研究室への寄贈数は計212部であるとの報告があった。

2）薬学部スポーツ大会補助について

５月21日（土）に開催され、飲物（お茶など596本×￥100＝￥59,600）を補助したとの報告があった。

3）事務局員の変動について

７月より新しく鹿子田道子さんが加わることになり、勤務シフトは鹿子田さんが月、火、木、金、そして吉田陽子さんが水、木に出勤すること、また会長は毎週木曜日に出校するとの報告があった。

5．工科系校友会幹事会（渡邊副会長）

薬学部校友会が当番校友会となり、第23回日本大学工科系校友会連絡会および第８回日本大学工科系校友会支部長会が８月27日（土）に理工学部船橋校舎で開催されたとの報告があった。

6．医療系同窓・校友連絡会（山内会長）

第４回医療系同窓・校友学術講演会は松戸歯学部同窓会が幹事となり、９月17日（土）14時より日本大学会館大講堂において179名の参加者のもとに開催され、本会からは42名で、小清水敏昌氏（12期）が「法的な情報源医薬品添付文書のはなし」の演題で講演されたとの報告があった。

7．本部校友会（山内会長）

常任会委員に山内が、渡邊副会長が財務委員会委員に任命されたこと。校友会館設置特別委員会委員長に山内が任命されたこと。また箱根駅伝振興特別委員会応援小委員会委員に前田常任幹事、高橋副会長、募金小委員会委員に原田常任幹事、渉外小委員会委員に山内を推薦したこと。各学部校友会の募金目標額は昨年同様30万円とし、今年も昨年同様の作業をすることが報告された。

個人情報保護法が施行されたことに伴い、校友会でもその対処法が定められたことが報告された。

8．全国薬科大学・薬学部同窓会（山内会長）

全国薬科大学・薬学部同窓会連絡協議会が10月10日（月）に広島で行われた薬剤師大会終了後に16校の参加のもと開催され、各同窓会の活動状況が報告された。他大学の卒後教育講座の聴講の可否が話題になったこと。役員として会長：石井道子［東薬］、事務局長：山藤武久［昭和］が選任されたこと。毎年薬剤師学術大会第２日目午後に開催すること。明年は福井市で開催されることが報告された。

9．その他

薬学卒後教育講座100回記念講演会は、11月19日（土）に日本大学カザルスホールで開催され、終了後に懇親会が開かれることと特別補助金20万円を薬学部に手渡したことが報告された。

【審　議】

1．学内委員会（高橋学内委員会委員長）

1）平成17年度卒業記念品の選定に関する件

平成17年度学位記伝達式（平成18年３月25日）で贈呈する卒業記念品は審議の結果、「ダヴィンチ　システム手帳」にすることが決定した。

2）平成17年度桜薬会賞の選考に関する件

本年度桜薬会賞の候補者として平成16年度桜薬祭実行委員長４年02145羽賀健悟君の提案があり、承認された。

2．その他

1）平成17年度総合講義試験問題集発行について（本橋事務局長）

例年通り薬学部より総合講義試験問題集発行の依頼があり、審議の結果、部数は今後検討するが発行することは承認された。

2）第３回運営委員会の日程について（本橋事務局長）

平成17年度第３回運営委員会は、平成18年３月17日（金）18時から日本大学会館201号室で開催することになった。

赤十字救急法救急員認定証取得者

薬学部の全面的ご協力を得て、日本大学薬学部校友会主催で第３回赤十字救急法救急員養成講習が開催されました。救急員認定試験に合格された方の氏名をご報告いたします。

第３回講習会合格者（平成17年９月12日～14日開催）

学部１年　東弘幸、古屋徳親、宮前政幸、馬上雅光、山田紘史

学部２年　石川恵美里、稲場佑生子、井上倫代、大塚泰吉郎、大山幸恵、小野春果、川島慶子、櫻井仁美、佐藤明子、高野美紀、田甫静花、内藤泰寛、中島隆良、中村和寛、南雲昭人、福島彩子

学部３年　井本亜希子、尾池智子、影山智恵、金井直美、金巻裕子、木野まり奈、清水順子、下田康代

以上29名

（学年は平成18年２月現在）

会 合 予 告

薬学部校友会（通称　桜薬会）通常総会並びに懇親会開催のお知らせ

平成18年度薬学部校友会通常総会並びに懇親会を下記により開催いたします。
多数ご参加下さいますようお願いいたします。

総　会
日　時：平成18年６月24日（土）13時30分～14時30分
場　所：日本大学薬学部

総会終了後、薬学部食堂にて懇親会を開催いたします（15時～17時）

薬学部校友会幹事会開催のお知らせ

通常総会に向けて幹事会を下記により開催いたします。幹事の皆様にはご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願いいたします。

日　時：平成18年６月２日（金）18時00分～20時
場　所：日本大学会館　701会議室

日本大学薬学部校友会（通称　桜薬会）千葉県支部通常総会開催のお知らせ

日本大学薬学部校友会千葉県支部総会を下記により、平成18年度薬学部　校友会通常総会に先だって開催致します。多数ご参加下さいますようお願い致します。

千葉県支部総会
日　時：平成18年６月24日（土）12時30分～
場　所：日本大学薬学部

昭和53年入学または57年卒業の同窓の集い（27期）

日　時：平成18年６月25日（日）13時～
場　所：フォーシーズンズホテル椿山荘東京
電　話：03-3943-2222（代表）

日本大学理工学部薬学科15期同窓会開催のお知らせ

日本大学理工学部薬学科15期同窓会を下記により行います。
詳細のご案内は、後日郵送させていただきます。多数ご参加くださいますようお願いいたします。

記

日　時：平成18年７月２日（日）

一次会：13：00～16：00
場　所：東京ガーデンパレス
（東京都文京区湯島 1-7-5　TEL03-3813-6211）

二次会：16：30～18：30
場　所：プラザ（居酒屋、お茶の水店、TEL03-3293-0240）

問合せ：黒河内 雅夫（TEL：03-3533-9848　E-mail：m-kuro3-0305@nifty.com）

第５回日本大学医療系同窓・校友学術講演会

日　時：平成18年９月30日（土）14時より開催予定
場　所：日本大学会館　千代田区九段南４-８-24
テーマ：「医療領域における最近の話題」
受講料：1,000円
参加者には薬剤師シール２単位を差し上げます。
詳細はホームページに発表します。

小川尚武教授退任記念祝賀会のご案内

桜薬会会員の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、小川尚武先生におかれましては、平成18年３月をもちましてご定年により退任されます。先生は、本学第十期生（昭和40年卒）であり、昭和63年熊本大学薬学部より本薬学部薬品物理化学研究室に助教授として赴任され、平成11年より教授として薬学部の発展ならびに教育・研究にご尽力されました。薬品物理化学研究室（旧香粧品化学教室）同窓会である薫会では、先生の永年のご功績をたたえ、そのご苦労に対しまして感謝の意を表したく、下記の通り祝賀会開催の準備を進めております。

つきましては、桜薬会会員の皆様のご出席を賜りますようご案内申し上げます。本祝賀会のご出席、記念品代のお振込み等に関しましては、誠に恐縮ですが、ご連絡（葉書、E-mail、TEL、FAX等）を下さいますようお願い申し上げます。追って、案内状を送付させていただきます。
なお、薬品物理化学研究室（旧香粧品化学教室）同窓会（薫会）会員の皆様には、別途案内状をお送りいたします。

薫会　発起人一同

記

日　時：平成18年７月９日（日）12:00より
場　所：アルカディア市ヶ谷
連絡先：〒274-8555　千葉県船橋市習志野台７-７-１
日本大学薬学部薬品物理化学研究室
齋藤好廣、田口博之
TEL: 047-465-6935　FAX: 047-465-6895
E-mail: htaguchi@pha.nihon-u.ac.jp

会費納入報告

財務委員会

会費を納入いただきました会員の方々の名簿です。ご協力ありがとうございました。誤りがございましたらお知らせ下さい。

（平成17年９月１日～平成18年２月28日）

会費納入者

●2,000円納入者

56武本信也，森本達也　58伊勢忠，中澤悦子　71福田昌子　72河辺恵子　73髙橋啓子　77種井政春　80宮内圭子　87高橋久美　94合木朗子　01中島慎一郎

以上12名

●4,000円納入者

58鹿田勝　61木村晴代　86松田一

以上３名

●8,000円納入者

87岩本和久

以上１名

●10,000円納入者

56安田健二郎　57石黒文夫，石黒由美子，古賀鉄也，澤野俊彦　58大川和子　59岡田玉恵　60有澤宗久，杉本伸夫　61石丸末子，近藤朝子，高橋頼子，鳴海紀代子，向井史津子　62二川博子，松山裕治　64金川栄子　65宮野ヨネ　66加納節夫，木村英二，小林正子，鈴木鎭世，千葉良子　71新井千寿子　72白崎裕子，田口久美子　73斎藤好廣　75植田伸子，成田雅洋　76高田義郎　77北爪美津江，久保田雅明　78岡崎泰子，吹田好弘，松浦信義　79牧野宏　80鶴田珠美　81梶屋わかば，柴田孝行，渡辺一樹　82長谷川孝明，福重潤子　83小島裕子　85河合省一，嶋崎啓二，藤井さゆり　86保坂さとみ，城戸万代，藤井修一　88北村由佳，関根均，吉野慶子　91尾川誠，冨田恵　92林裕崇

以上55名

●12,000円納入者

05土切正紘

以上１名

●20,000円納入者

81儘田和枝　88橋本道代　89天羽一昭　95長崎智子　01加藤愛子　05雨宮愛，梶原信樹，近藤太一，嶋田逸大，下田健一郎，杉山卓弥，藤代大輔

以上12名

入会金納入者

○平成14年入学者

今木亜矢子

以上１名

○平成15年入学者

市東永三子，遠藤俊也

以上２名

会報封筒宛名欄会員番号に☆印のついている方は本年度会費が未納の印です。会費納入をお願い致します。

会費は年額2,000円です。
事務簡素化のため5年分10,000円又は10年分20,000円を一括納入して頂ければ幸甚です。

お願い

薬学部校友会会員が国・省庁・自治体・各種協会などから表彰を受けられた場合、本人またはご友人は事務局までお知らせ下さい。会報紙上に紹介し、校友全員でお慶びを申し上げたいと思います。

緊急注意

最近、人事新報社名鑑出版部から《「日本大学薬学部同窓名鑑」について協力要請（現住所・職業などの問い合わせ）のハガキが手元に届いたが》と事務局に問い合わせがありました。同案内の本文中にも「学校・同窓会と関係はない」とありますが、「日本大学薬学部同窓名鑑」は日本大学校友会・薬学部校友会（桜薬会）ともに全く関係ありません。

日本大学薬学部校友会の会員名簿は平成17年２月に最新版が完成し、現在配布しております。名簿をご希望の方、または異動のあった方は、薬学部校友会（桜薬会）事務局までご一報下さい。また会員名簿は当分の間、作成しない事になっておりますので宜しくご配慮下さる様お願いします。

発行日　平成18年４月15日
編集人　日本大学薬学部校友会事業委員会
発行人　日本大学薬学部校友会　山内　盛
印刷所　協友印刷㈱
TEL 03－3267－8056

発行所　千葉県船橋市習志野台7－7－1
日本大学薬学部内（〒274-8555）
電話・FAX 047－465－1478（直通）
振替口座番号　00140－0－53798
振替口座名　日本大学薬学部校友会